

# 許田付近海域における流況調査報告

平成16年11月24, 25日の大潮の低潮(干潮)時に許田付近海域において、流況調査を実施した。観測方法は、測量船搭載の超音波流速計(ADCP)による流向流速の観測及びDGPSブイによる漂流観測である。

## 1. 観測海域

測点図に示すとおり

## 2. 使用船舶等

測量船「おきしお」及び搭載艇  
業務用自動車 一台

## 3. ADCP 観測結果

ADCP 観測はブイを漂流した時間に合わせて、低潮前・後の2回観測をおこなった。結果を第1～4図に示す。

11月24日は、低潮前・後ともに湾内を時計回りに流れており、湾口付近で1kn程度、湾奥付近では0.5kn程度の弱い流れであった。

11月25日もおおむね前日と同様の流れであった。

## 4. 漂流観測結果

11月24, 25日の2日間、低潮前・後の2回(約1時間)観測を行った。また、観測点は24日は測点A, B、25日は測点C, Dで同時にブイを流した。結果を第5～8図に示す。

24日は低潮前・後ともに、北東寄りの風4～5m/sの影響を受け、岸に沿って南西方へ約0.2knで流れた。

25日は低潮前・後ともに、北東寄りの風6～7m/sの影響を受け、岸に沿って南西方へ約0.3knで流れた。

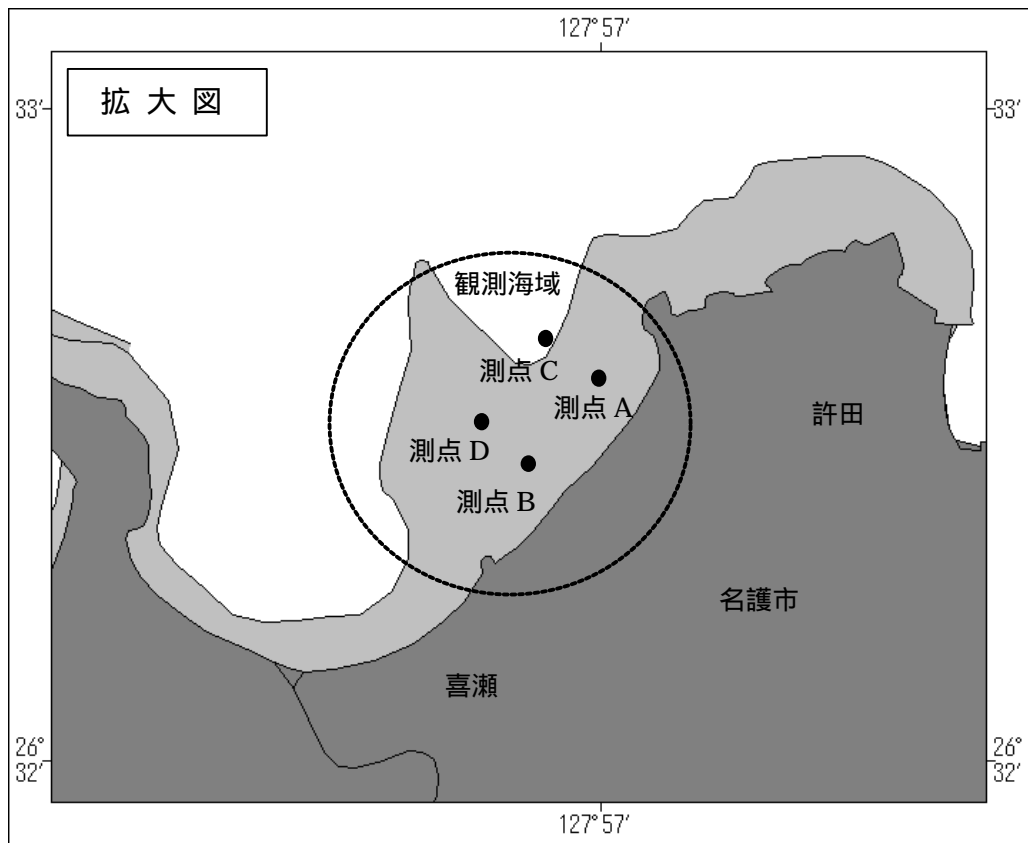
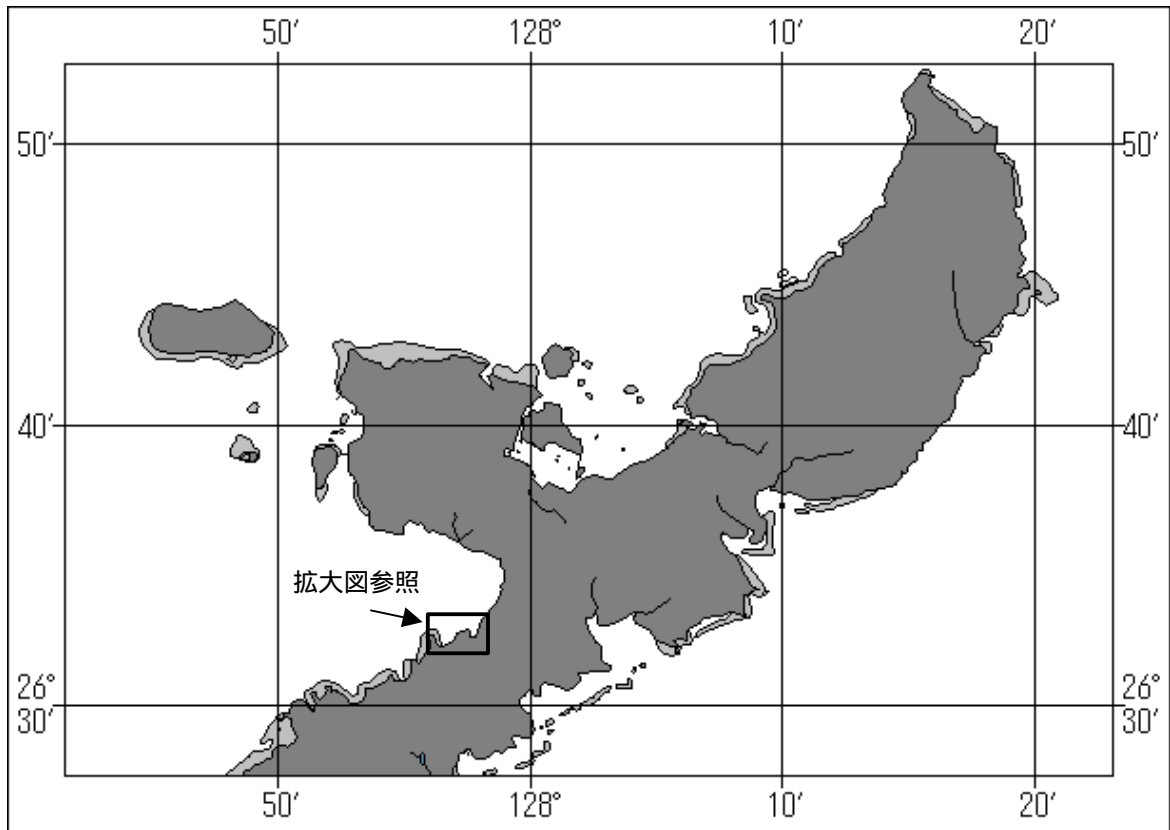
## 5. まとめ

今回の観測海域である許田付近海域は、名護湾南部に位置し夏季は海水浴場として、冬季はウインドサーフィン等マリトレジャーで1年を通して観光客や地元の人で賑わう場所である。

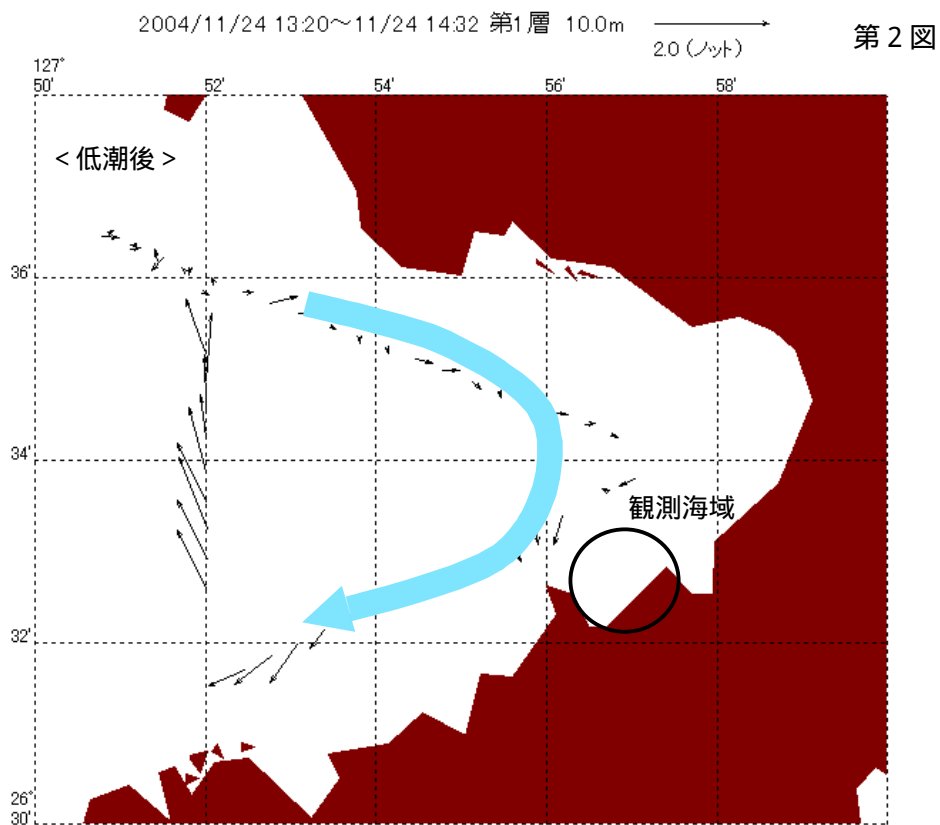
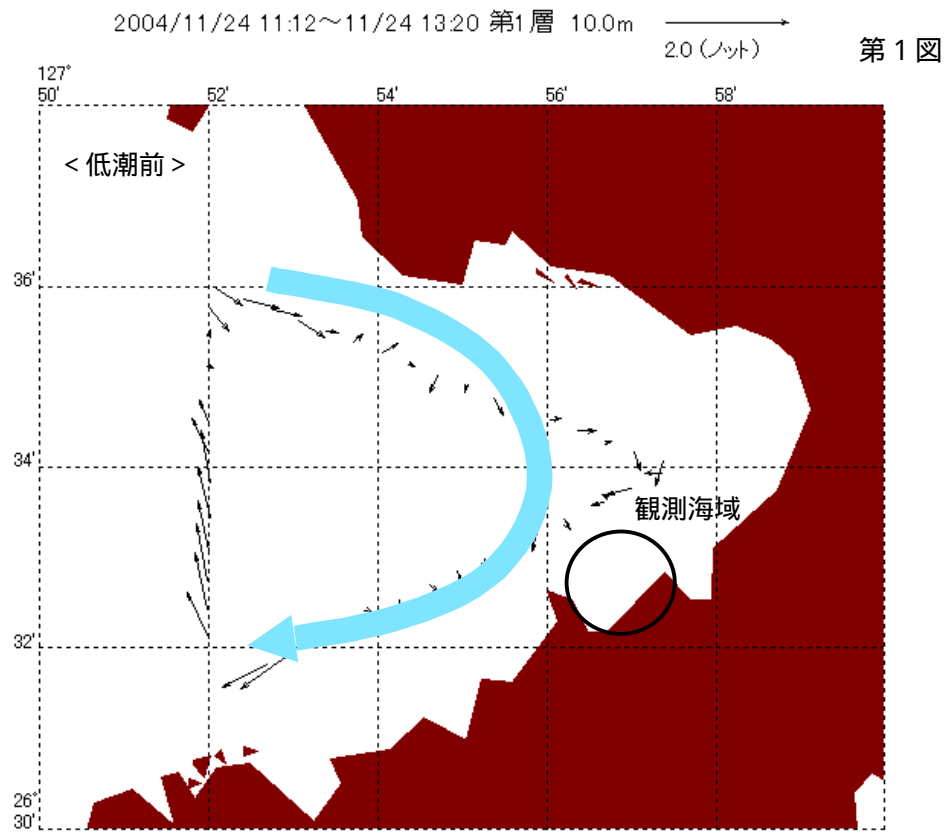
今観測では、幸いにも直接海浜事故に結びつくような急な流れは観測されなかった。同海域では24・25日ともに低潮を挟んで1～2時間は南西方へ流れるという結果になった。これは本海域付近の潮流がもともと弱く(流況図参照)また観測期間中の風が常に北東風であったことから、風に起因する流れが発生したと推察される。

リーフ内のような浅い海域の流れは、風によって流況がおおきく変化することがあるので、マリトレジャーの際には十分注意する必要がある。

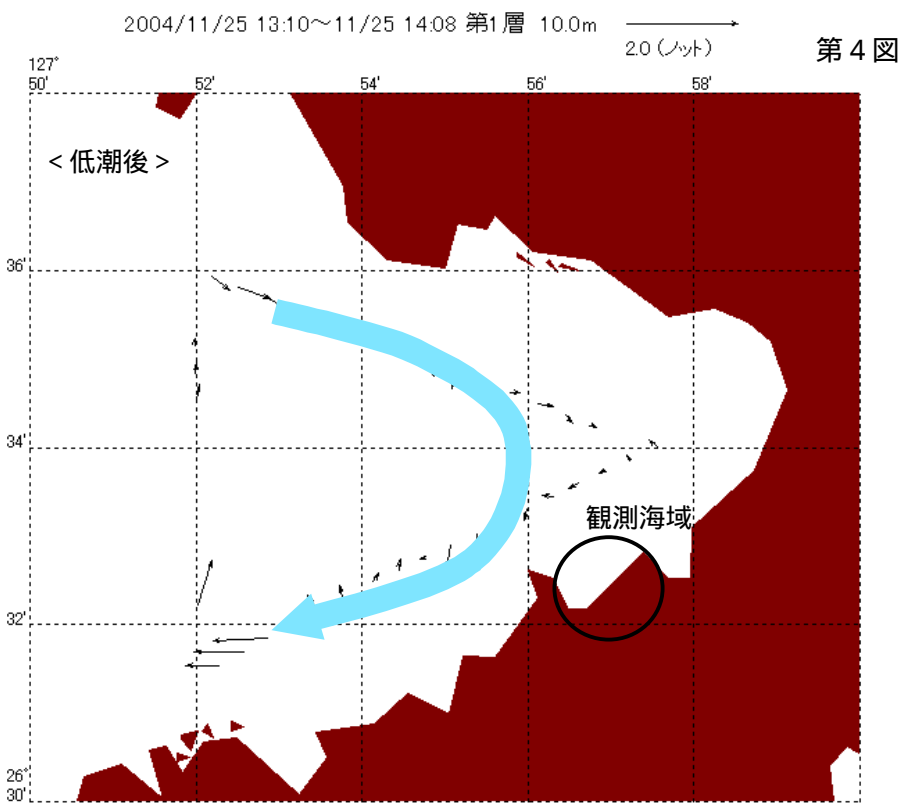
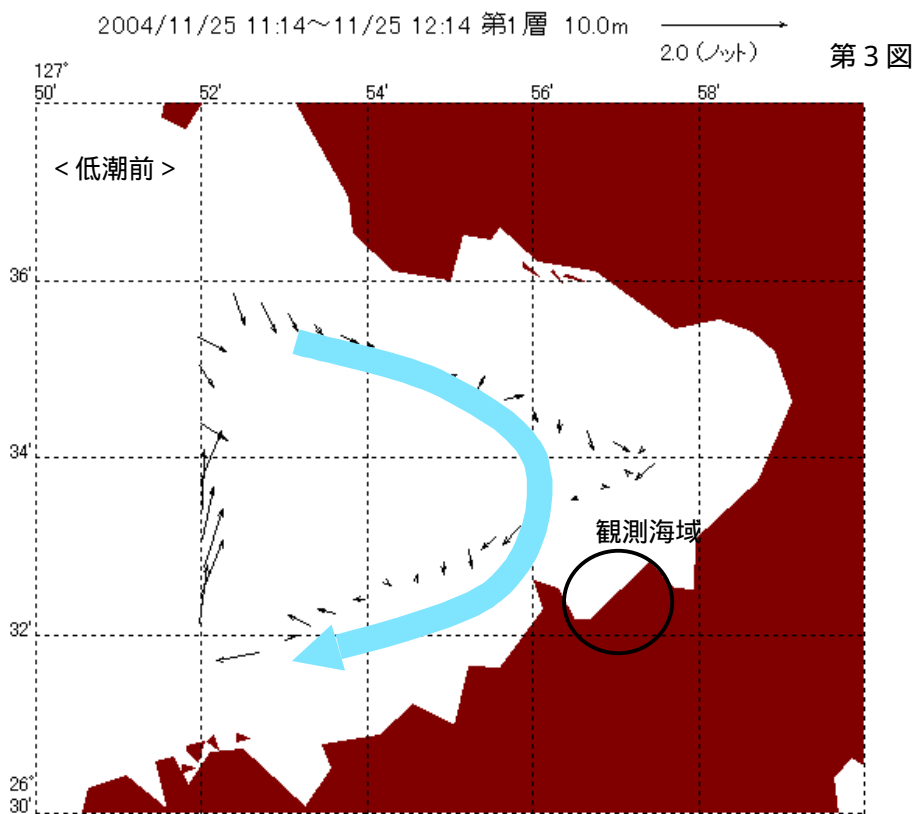
# 測点図



# ADCP 観測結果 (11月24日観測)

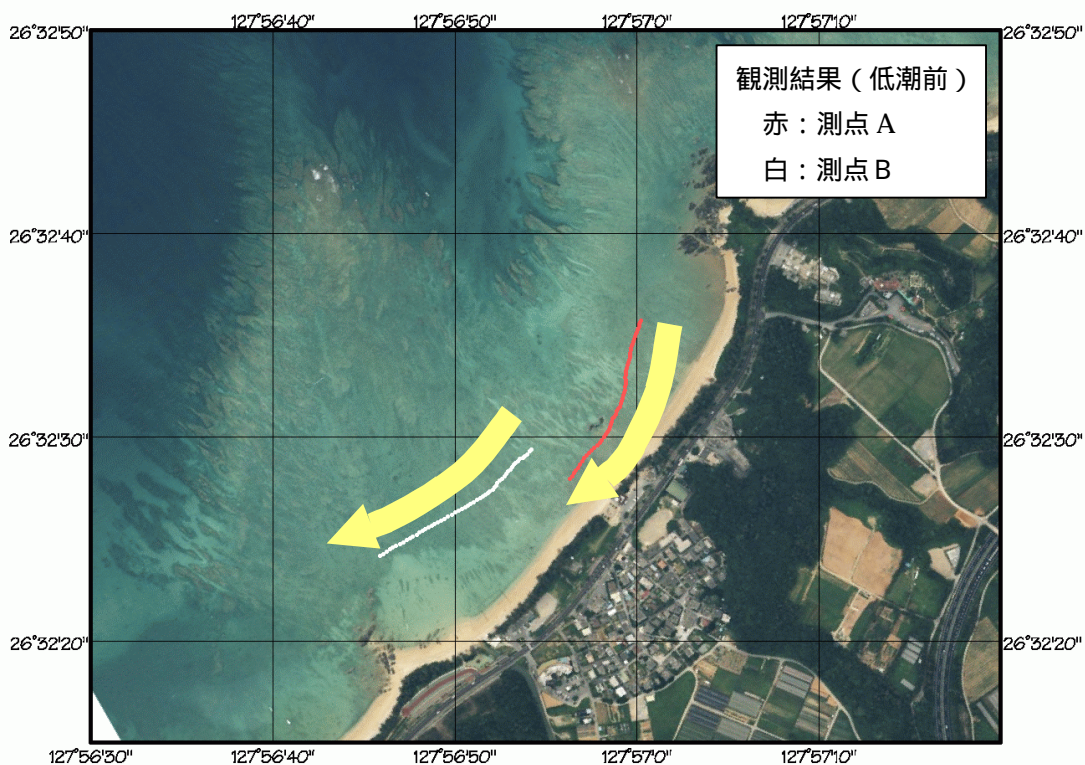


# ADCP 観測結果 (11月25日観測)

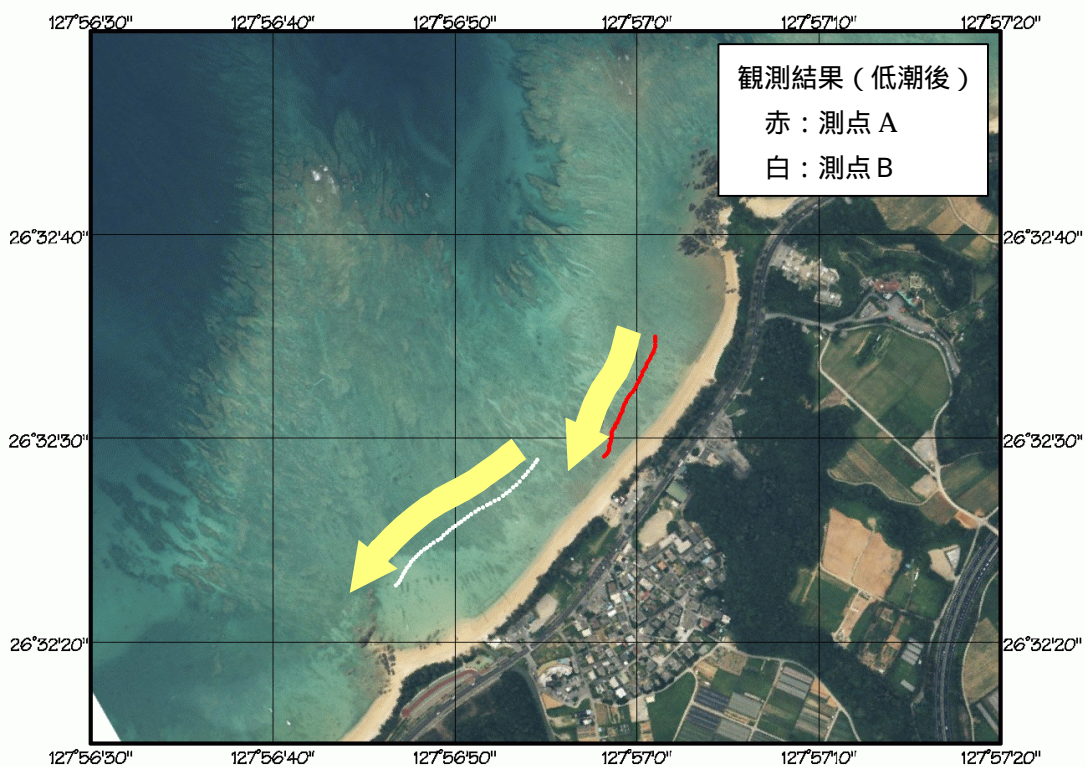


# 漂流観測結果 (11月24日観測)

第5図

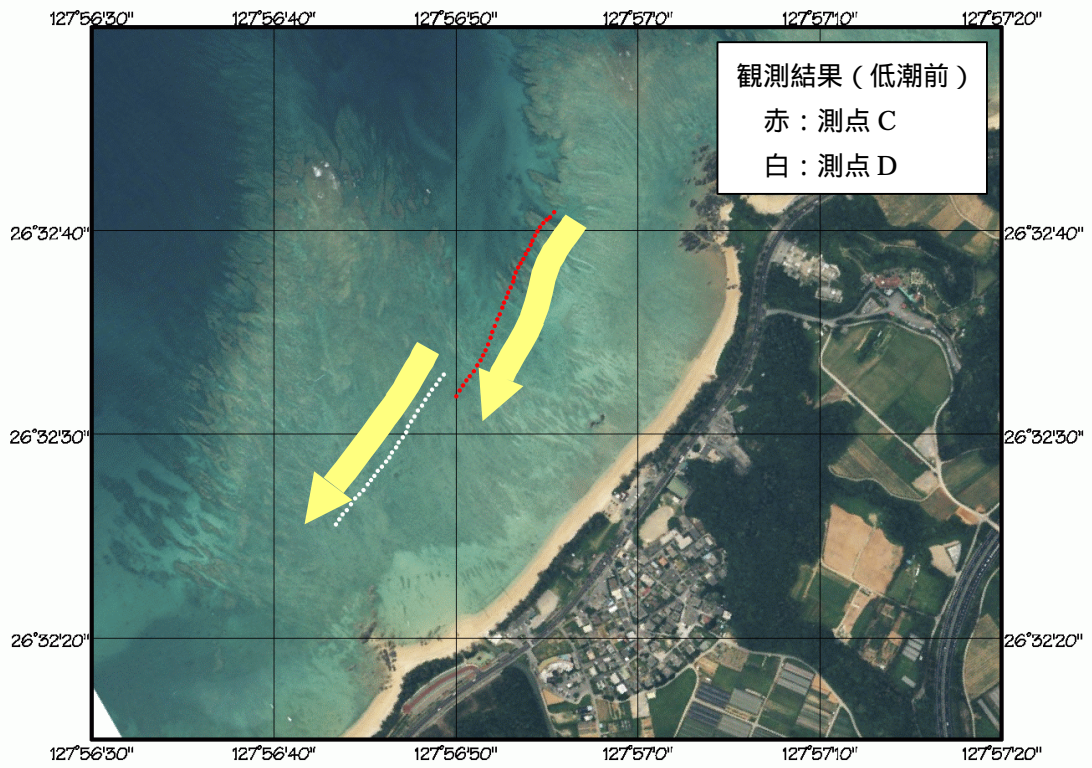


第6図

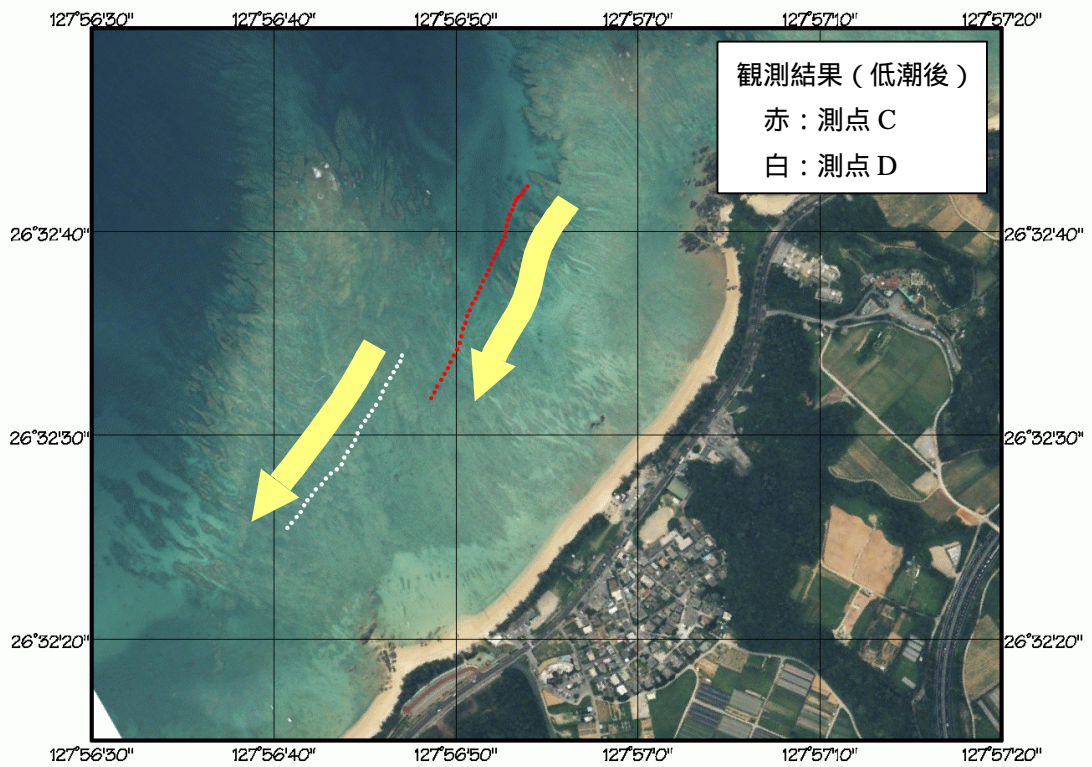


# 漂流観測結果 (11月25日観測)

第7図



第8図



## 流況図

平成 16 年 5 月に実施したブセナリゾート付近潮流観測で得られたデータをもとに、那覇港の潮位を基準として大潮期の平均流況（半日周潮 + 1/4 日周潮）を 3 図（下図）にまとめた。なお、日周潮及び恒流成分は含めていない。

